

(稲) 稻生若水 本草学者。加賀国金沢藩儒臣となり、「庶物類纂」362巻をまとめる。

いのうじゃくすい

・ ・ ・ ・ ・ 1655 = 江戸淀藩の屋敷で、藩の御典医稻生恒軒の子に生まれる。字は彰信・通称は正助、若水は号である。

明暦の大火・1657 = 2歳：

少時より動植物を好み、

・ ・ ・ ・ ・ 1664 = 9歳：

酒井忠清大老1666 = 11歳：

経義を木下貞幹に学び、父から医学を学んだ後、

大坂の福山徳潤について本草学を修め、

三井越後屋・1673 = 18歳：

群籍を読破して知識を蓄えるばかりでなく、みずから山野を歩一いて実地に動植物の鑑別力を養った。

徳川綱吉將軍1680 = 25歳：

好色一代男・1682 = 27歳：

堀田正俊暗殺1684 = 29歳：

学識が広く知られるようになり、

この間、

・ ・ ・ ・ ・ 1689 = 34歳：「炮灸全書」を執筆して、

別子銅山始・1691 = 36歳：

世間胸算用・1692 = 37歳：\*刊行。

奥の細道・・1693 = 38歳：\*宿志を達して、学問に深い理解があった金沢藩主前田綱紀の儒者役に召し抱えられ、特に隔年詰が許され、京都に仮寓して、専心研学に従事する自由が与えられ、みずから修して稻生を稲と改める。

芭蕉+師直没 1694 = 39歳：「金沢草木録」一冊、

生類憐令頂点 1695 = 40歳：「食物伝信纂」十二巻を編述して綱紀に進める。当時本草学の典拠とされた明の李時珍の「本草綱目」の遺漏を補おうとした綱紀から、「庶物類纂」の編述を命じられ、まず「本草綱目」を読破し、

・ ・ ・ ・ ・ 1697 = 42歳：この準備作業と併行して、「庶物類纂」千巻の著述に着手、

・ ・ ・ ・ ・ 1700 = 45歳：

赤穂浪士討入1702 = 47歳：校訂を加えた「新增炮灸全書」四巻を刊行。

徳川綱吉没・1709 = 54歳：「詩経小識」五巻を執筆、

乾山陶器店・1712 = 57歳：\*ようやく「本草綱目新校正」の刊行開始、

絵島事件・・1714 = 59歳：「本草図翼」四巻「結毫居別集」六巻を刊行。「本草綱目新校正」の刊行終えたが、

西洋紀聞・・1715 = 60歳：\*「庶物類纂」362巻まで完成したところで、京都で、没した。

没後、徳川吉宗の命を受けて、若水の子や弟子が残り638巻を完成させた。日本に博物学の興隆を促した功績は大きい。著書には、前記のほか、「採薬独断」二巻などがある。